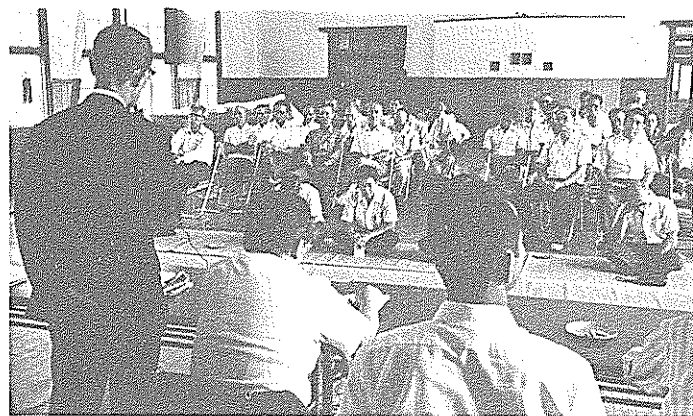


小学校改築、パークタウンなどで討議

十市地区で 市政こん談会



公民館活動の一環としての「十市地区市政こん談会」が9月25日十市地区公民館に地元住民約60人が参加して開かれました。

当日は、市から小笠原市長、吉本助役、門田教育長、国松教育次長、岡林水道局長、乾建設課長が、関係機関から長野県住宅供給公社開発室長、有沢南国土木事務所技術次長らも出席。地区のかかっているマ小学校改築問題、黒潮ラインパークタウン、十市地区水道施設などの当面する問題について熱心な討議がなされました。

会に先立ち、まず市長が「市長就任以来三つの柱に取り組んできた。まず財政再建は、まがりなりにも赤字解消を行い、開発公社の赤字解消に今後努める。空港についても83年の用地買収が終了進行中であるが、まだ多くの問題が残されているので努力をしたい。同問題も行政の大きな柱としてみなさんとともに解決したいと考えている。幸いに同対策特別措置法の三年間の延長もあり、今までつみ残した課題をなくするよう努力する。また地方行政と教育とは切り離して考えられない。教育はモラルをわきまえた青少年をつ

くることを目的とするもので、そのためには教育施設の充実を図る必要がある」などの意見を述べたあと関係課長らから諸問題に対する説明があり、質疑に入りまし

《教育委員会》

十市小は危険校舎になっていくことは事実です。改築の必要は認めているが、パークタウンとの関係を切り離して考えられない。そこで①54・55年度でパークタウンの基本設計が完了するので、その時点で場所を決定する②土地の購入費の問題③公社は、用地造成は先にやる、と言ってくれているので、造成は56年度になるだろう④新校舎は当然水洗便所にし、閉地の終末処理場とかみ合

せて行わなければならない⑤補助金、財政との関係からとりあえず現在の校舎改築分を建て、随時増築して行くという考え方をもちている。

《水道局》

市の水道は昭和25年に稲生地区で簡易水道が出来たのが始まりで、昭和47年からは、7カ年計画で南部広域水道事業に着手、十市



三和、前浜地区に完備。現在上水道1カ所、簡易水道7カ所となっている。給水人口は、現在二万三千八百四十人で、市の人口の53%となっている。

この地区に開発のある南部広域水道の給水人口は、現在七千五百二人で、パークタウンを含めると、約一万一千五百人の人々に給水する計画をもっている。

局の条例で、ご家庭の自家用の配管には水道管はつながらないことになっている。市の水道を利用したい方は新たに配管をお願いしている。また、本管からの支線については部落の意見を十分聞いて対処したい。

《県住宅供給公社》

パークタウン用地92ヘクタールが、9月14日、市街化区域に制定された。

今までのパークタウン構想はあくまでも案であり、今年度から基本計画を進め、55年度には基本設計、実施設計にうつりたい。しかし、まだ未買収地が全体の20%にあたる15%が残っている。地権者の方にご協力をいただき、56年秋から開発に着手し、59年には造成を完了したい。その後、住宅建設に着手し62・63年には完成したい。

次に学校関係については、約25%あれば十分だと聞いているので、市とも相談しながら造成が急ぐようだとその時点でいつでも用意する。

また、下水処理対策についても57年から着手し、それまでにどのような施設にするか検討し、完全にできるような施設をもつて終末処理にあたりたい。

《南国土木事務所》

黒潮ラインについて、以前計画案を説明したと思いますが、一部を残して法線が確定した。西から第一工区(六四〇〇)、第二工区(三三〇〇)、第三工区(三三〇〇)、第四工区(三三〇〇)、第五工区(四〇〇〇)とわけてある。

用地買収については、一工区はすでに価格を提示しており、おりあいがつきだいたい買収に入りたい。その他の工区についても随時買収に入りたい。

十市川の河川改修については、石土地が防災調整池となるので合せて改修したい。計画は、まず十市川を改修し、石土地は、現在より一層ぐらゐり掘削し、25%の面積で常時70万の水をためる防災調整池とし、下流に被害を与えないよう計画をしている。

◆質 議◆

□空港の拡張は時代の波であると言われ進行中と聞いたが、それに伴う周辺整備事業で十市地区は対象地区外だがジェット化すると騒音の被害は多いと思うが。

■周辺整備事業は、市の負担金なく進めて行くことで話し合いができていく。周辺という区域は一応今の時点では固定しており、公共事業も二百億円程度必要となるかもしれない。現在県との「覚書」をかわすよう進めている。国・県の費用で全部行うのだから、十市地区を今の時点で含めることはむづかしい。ジェット化して問題があることが立証されると、行政の力で努力して対策を講ずることになるだろう。

□十市小は明治40年に建てられた危険校舎で改築が急務だが、パークタウンとのからみで、海とも山

とも言えない状態になっているが、パークタウンとの関係をのぞいて改築にとり組んだらどうなるか。

■現在の場所での校舎を改築すると、将来拡張の余地がないし、運動場もせまいので適当な場所ではないと判断している。パークタウンができ学校が必要になった場合、十市地区に二つの学校が出来るとはあまり感心しない。やはりパーク内に学校をかまえ、一校にまとめることが適当だと考える。パーク内に学校を造ることも、公社が用地造成を含め深いご理解をしていくので、この方向で進めたい。

□黒潮ラインは、いつ着工されるのか。一部に反対される地区があると聞くが、反対があっても着手されるつもりか。

■一工区、四工区は57年度中に車が通れる程度にしたい。その他の工事についても60年までには行

たいが、地元との協議を深め、黒潮ライン全体について強制執行をする考え方は全くない。

□ある地区では、地元で寄付金を集めるから先に校舎改築をしてくれと話をしているように聞いたが、寄付金があれば優先するの。が、寄付金があるから早く改築するということは教育行政としては適当でないという教育委員会の基本的な考え方をもちている。

□パークタウンの終末処理は完全に行うと言っているが設計もできていないうちから約束できるのか。■公社としては、終末処理は完全に行えるような施設とし、学校建設に間に合うようにする。また処理した水質は、農業用水にも使えるよう保障し、施設の場所も基本設計で明確にします。

□この地区は、ハウス園芸で20数億円の生産を上げているが、農業用水で苦労している。防災調整池

の水を利用できるよう行政の力で農業用水の確保に努めてほしい。

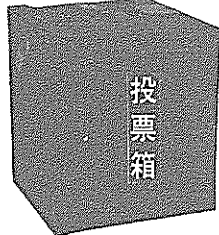
■公社とよく協議し、有効に水が利用できるよう対処していきたい。□十市地区は、道路に関しては他地区よりかなり遅れている。集出荷、し尿のくみとりはかなり困っているのだから早く改築したい。

□かなり路面がいたみ、舗装といえがたい状態と思うが、未舗装の管理について予算をつけてほしい(地元は草刈りなど行っているが)■拡張は、効果のある道路にするために4%を基準に行っている。舗装は、全地区舗装をたてまえにしているが、市全体で八百もの路線を管理しているので、なかなか手が届かない。また、生活道、農道の舗装へもなかなか対処できない現状である。未舗装の管理について、草刈りなどは地元でしてくださるようこれからもお願いし、協力してほしい。

市議会議員選挙

10月11日告示

10月21日(日)投票



市長選挙

10月25日告示

11月4日(日)投票

不在者投票

不在者投票は、市議会議員選挙・市長選挙とも、告示日から投票日の前日までできます。時間は、土曜、日曜、祭日を問わず、午前8時30分から午後5時まで、市役所4階の選挙管理委員会事務局で受付けています。